

第六十三回

参議院内閣委員会議録第八号

昭和四十五年四月七日(火曜日)
午後一時三十五分開会

委員の異動

四月六日

辞任

岩間 正男君

補欠選任
野坂 参三君

四月七日

辞任

源田 実君

野坂 參三君

補欠選任
岩間 正男君

出席者は左のとおり。

委員長	源田 実君
理事	野坂 參三君
委員	西村 尚治君
八田 趙夫君	西村 尚治君
足鹿 覚君	西村 尚治君
上田 哲君	西村 尚治君
岩動 道行君	西村 尚治君
佐藤 隆君	西村 尚治君
柴田 栄君	西村 尚治君
玉置 猛夫君	西村 尚治君
長屋 茂君	西村 尚治君
安田 隆明君	西村 尚治君
矢山 有作君	西村 尚治君
山崎 昇君	西村 尚治君
片山 武夫君	西村 尚治君
岩間 正男君	西村 尚治君

○委員長(西村尚治君) ただいまから内閣委員会を開会いたします。
委員の異動についてお知らせいたします。
昨六日、岩間正男君が辞任され、野坂参三君が選任せられました。

○委員長(西村尚治君) 国家公務員等の旅費に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出、衆議院送付)を議題としております。

○山崎昇君 大臣に二、三点お聞きをしたいと思うのです。

実は、前回の委員会で資料の提出を求めまして、きよらもったわけなんですが、私どもの要求した資料とかなり内容的に違つたものであります。そこで、大蔵大臣に私の意見も交えながらお尋ねしておるわけです。

たいのは、この資料の一番最後の数字を見てもわかりのように、実態と改正額と合わない点も二、三あります。それから、実態調査した結果、

國務大臣 大蔵大臣 福田赳夫君

調査の対象のないところもあります。したがいまして、私どもから言うならば、この表そのものについてかなり疑問を持つておるわけです。しかし、まあ私ども自身の調査の資料もありませんから、一応これを使つたとしても納得できない点が一、二点あります。

そこで第一に、この間の委員会で、旅費というものは実費弁償であるということは、私どものおり認めましたし、大臣からも答弁がありました。もしも実費弁償というならば、なぜ実績額を下回つた改定をしなきやならぬのか、あるいは実績額の調査のできないところについて適當な金額が入れてあります。これについても私ども根拠薄弱だと思っておるので、その内容について御説明を願いたい。

それから、特に移転費用の場合には、実費弁償という性格からいくなれば、給与法上の等級で鉄道運賃等を規制するのは、私は、誤りではないだろかと思います。どうしてもある程度の分け方をするというならば、むしろ家族構成等で何段階に分けるなら私はわかる。しかし、移転をするのに、給与法上の等級がこういう差を設けるといふことは、どうして私ども納得できないわけです。ですから、鉄道等を利用する場合でありますから、本来ならこれは、かかった額を全部補償するのが当然のやり方なんで、そういうことをやらなければ、鐵道等を利用する場合でありますから、私どもとしても納得できないわけですから、そういう意味で第一にお尋ねしたいのが、いま申し上げたこの表の説明を少ししてもらいたいというふうな意味で第一にお尋ねしたいのが、いま申しことと、それからこの給与法上の等級別の差といふものを、いますぐはここで修正できないにしておきたい。

○國務大臣(福田赳夫君) 第二点ですね、給与等級による旅費の査定というのを廃止したらどうか、

その他の、大臣から御指摘ありました、たとえ

数字がないわけでございます。

その他、大臣から御指摘ありました、たとえ

三等級につきまして三百キロ以上五百キロ未満

政府委員
人事院事務総局 給与局長 尾崎 朝夷君
大蔵政務次官 藤田 正明君
大蔵省主計局次 長橋口 收君
事務局側
常任委員会専門員 相原 桂次君

調査の対象のないところもあります。したがいまして、私どもから言うならば、この表そのものについてかなり疑問を持つておるわけです。しかし、まあ私ども自身の調査の資料もありませんから、一応これを使つたとしても納得できない点が一、二点あります。

そこで第一に、この間の委員会で、旅費というものは実費弁償であるということは、私どものおり認めましたし、大臣からも答弁がありました。もしも実費弁償というならば、なぜ実績額を下回つた改定をしなきやならぬのか、あるいは実績額の調査のできないところについて適當な金額が入れてあります。これについても私ども根拠薄弱だと思っておるので、その内容について御説明を願いたい。

それから、特に移転費用の場合には、実費弁償という性格からいくなれば、むしろ家族構成等で何段階に分けるなら私はわかる。しかし、移転をするのに、給与法上の等級がこういう差を設けるといふことは、どうして私ども納得できないわけです。ですから、鉄道等を利用する場合でありますから、本来ならこれは、かかった額を全部補償するのが当然のやり方なんで、そういうことをやらなければ、鐵道等を利用する場合でありますから、私どもとしても納得できないわけですから、そういう意味で第一にお尋ねしたいのが、いま申し上げたこの表の説明を少ししてもらいたいというふうな意味で第一にお尋ねしたいのが、いま申しことと、それからこの給与法上の等級別の差といふものを、いますぐはここで修正できないにしておきたい。

○國務大臣(福田赳夫君) 第二点ですね、給与等級による旅費の査定というのを廃止したらどうか、

こういうお話をございますが、これは、給与の高い人は旅費はかかるわけなんんであります。これでは社会一般の通念みたいなものになつておるんじやないか、そういうふうに思います。なお、よく検討はしてみますけれども、いまここでこういう方向で考えるという基本的な方針を申し上げるわけにはいかないと思います。

それから、調査表の別表でございますが、一人当たりの実態調査、これは大体のところ実績よりは上がつておるということになっておるわけでございまするが、しかし、鉄道の運賃ですね、三百キロメートル以上五百キロ未満のところですね、相当実績よりも下がつておるのが三等級において大きく目につくわけあります。その他にも多少のところがあります。ひとつその事情につきましては、橋口次長から御説明申し上げます。

○政府委員(橋口收君) 旅費法の改正を立案いたしました場合に、前回委員会でも御説明申し上げましたように、職員について調査をいたすわけでございます。で、お手元の資料をお配りいたしてございます。が、その六ページに公務員の赴任に伴う移転費用の調査についての問題でございます。これは七ページにも書いてあります。ようやく、調査対象官庁の職員数は四万三千人でございますが、たまたま昨年の三月から六月までの間の異動者を対象として調査いたしたわけでございますので、實際に赴任をいたした者は三百五十人程度でござります。したがいまして、六ページの表につきましては、たまたま調査の対象の人員の中には三等級の者で五十キロ未満の赴任がなかつたということで、数字がないわけでございます。

の職員の調査が非常に高く出ております。ただ、

これは三百キロ以上五百キロ未満の欄につきまして、横にごらんをいただきますと、三等級の八万一千二百二十円というのは、やや異常なケースだ

といふことが言えるかと思ひます。そういう若干の例外を除きますと、大体等級に応じ、また級位に応じ、高は実績調査の結果が出てるわけでござります。

で、実績のないところ、あるいは実績がやや異常と見られる部分につきましては、六等級を一といたしまして、それに対する一定の倍率をもつて計算をして数字を置いているわけでござります。

○山崎昇君 いま説明ありましたが、あなた方は厳密な実績調査をやって、それで数字をつくつてみると、こう言う。しかし、つじつまが合わなくなってくると、六等級を基準にして一定の倍率を掛けたと、こう言う。そうすると、質問する私どものほうからいふと、何が基準なのかと言いたくなつちやう。だから私は、この数字を一つ見ても、いま大臣からお答えがありましたら、俸給表の等級が上になれば何か金もかかると、こう言う。そ

れでは七等級と六等級とどれだけの差があるか、五等級と六等級とどれだけの差があるか。この表でいえば、当然六等級安くなければなりませんが、かなり高い。四等級のいまあなたは千キロから一千五百キロのところを言いました。異常だと、こう言う。しかし、異常だと言うけれども、これは実績なんですね。かかるつているんですね、これだけ。だからこの数字そのものは私は疑問を持つけれども、しかし、これを十分反論するだけの私の調査の資料がないから、一応これで言っているわけなんですが、どうしても納得できないわけです。そこでどうしても実費弁償で金がかかるといふなら、いますぐ私は修正しろということを大臣

の欄につきましては、その他の公務員の給与の場合もそうであります。審議はなるほど国家公務員を対象にしてやります。しかし、これが上がりると、必然的にこれは地方公務員に連をしてくる。いわば二百五十万くらいの公務員がそれによってある程度規制されるわけですから、そういう意味で言ひながら将来調査をされ

いたいというふうに考えます。

それからなお、旅費の場合は、その他の公務員の給与の場合もそうであります。審議はなるほど国家公務員を対象にしてやります。しかし、これが上がりると、必然的にこれは地方公務員に連をしてくる。いわば二百五十万くらいの公務員がそれによってある程度規制されるわけですから、そういう意味で言ひながら将来調査をされ

いたいといふふうに考えます。

それから第二は、最近どこに行きましたかと

乙の撤廃についてお考えがいただけるかどうかと

いうこと。

それから第三番目は、六等と七等と一緒にしまして、「六等級以下」と、一つ区分減ったんですけれども、ただグリーン車等の昔の一等の使用の問題

については、八等級だけ別扱いになつてゐるんで

すね。これは私はもう八等級もひくんで六等

以下にしてもらいたいというふうに考へるので

す。そうしませんと実情に合わないのじやないか

と思うのですね、逆に言ひなれば、事務当局の説

明では、まああんまり出張もないであらう、それか

ら学校を出てすぐグリーンもどうだらうか、こう

いう御意見もありました。いま旅行を見ても、

むしろ飛行機の利用等を考へてみても、学生と言

うわす何と言わず、いまやもう旅行上でそういう私

は等級の上の者から下の者から差別があるという

ふうにはどうしても受けとれない。そういう意味

で、これもほんとうはすぐ直してもらいたいと思う

んだが、今後ひとつこの次の改正のときには御検討いただきたい、こう思ひますが、どうですか。

○国務大臣(福田赳夫君) まず甲乙両地区の統合

の問題であります。統合までいくのはどうか、

こういう感じがしますが、いま二五%の開きが

ある。これは経済状態もどんどん流動している

こういう際ですから、これは再検討します。そ

うして、これは善処いたしたい、さように存じま

す。

○山崎昇君 それでは次に宿泊料金等の点で、

二点お聞きをしておきます。

第一は、これもやっぱり問題があるので、

甲乙に分けられておる。前の附帯決議をだいぶ入

ります。しかし私は、もうこれは設けておく必要

がないのではないか。金額にしてせいぜい四、五百円の差なんですね。そういう意味で、この甲

それから八等級、これの問題につきましては、これはいま八等級を受ける者と、高等学

人で、役所における地位は係員と、こういうよう

を出まして数年たち、年齢でいえば二十二、三の

歳になったときに、その方々がグリーン車、

おおむね一割五分から二割、料金のほかにとつて

いるようになります。そういう意味で、今後の旅

費改正の際に、こういう暖房料金の問題について

申上げたように言ひられて、これはすぐはここ

で修正できないにしても、そういう点ひとつ検討

されて、直す方向をとられるのか、とられないの

か、もう一ぺん聞いておきたい。

○国務大臣(福田赳夫君) いま、山崎さんが等級全廃論のお話さつき申されましたものですから、それはむずかしいとさうふうに申し上げたんですから、それが、山崎さんの御指摘のいろんな問題、私ども考

えなければならぬ点があるように思ひます。した

がいまして、この等級表を、今日のように等級ごとに区割りをきめておくことがいいかどうか

か、あるいはこれを多少くるとか、そういうこ

とをきめたらしいかどうか、あるいは調査対象を

がいまして、広く地方公務員とか、そういう者もしたらどう

かというお話をですが、そういうことも考へなければならぬかと思います。まあいろいろ大事な御意見でありますので、前向きに検討させていただきま

す。

○山崎昇君 それでは次に宿泊料金等の点で、

二点お聞きをしておきます。

第一は、これもやっぱり問題があるので、

甲乙に分けられておる。前の附帯決議をだいぶ入

ります。しかし私は、もうこれは設けておく必要

がないのではないか。金額にしてせいぜい四、五百円の差なんですね。そういう意味で、この甲

それから、私は燃料費というやつにあんまりぶつかつたことはないのですがね、暖房料ですね。こういうものも実情をよく調べてみまして、何か適切な手があるかどうかこれも検討いたしました。

それから、私は燃料費というやつにあんまりぶつかつたことはないのですがね、暖房料ですね。こういうものも実情をよく調べてみまして、何か適切な手があるかどうかこれも検討いたしました。

それから、日額旅費は、これは旅費法が終わつてから大蔵省でいろいろ各省と相談されて検討されれるようありますが、これも十分ひとつ各省の事情を開きながらやつてもらいたい。場合によりましては、予算がないと、いうことで、かなり協議されたあとでも削られる運命を持っているのです。そういうことなしように、実際に現場で働く公務員がそういうことで差別させられたとか、あるいは何かそういうことで負い目を感じるといいま

す。

ら、時間の節約上、もう一点申し上げたいのは、旅費法の改正の見ますと、大体四年に一ぺんくらいになっているわけですね。外国旅費の場合は今度三年目でありますけれども。そこで、四年に一ぺんというと、かなり私は時代的にズレているのじやないか。その間かなり公務員については損失があるのじやないか。そう思いますから、毎年毎年というとなかなか繁雑な点もあるでしょうけれども、少なくとも二年に一ぺんかそこらのことは、ひとつ配慮頗るるようにしてもらいたい、こう思います。

○国務大臣(福田赳夫君) ただいまの御所見、い

ずれも私どもつともな点があると思います。航空機の問題、これはまあ航空機時代ですから、実情に応じてひとつこれが使用できるように、これは各省の行政運営の問題であります。大蔵省としてもそういう配慮をいたしたいと思います。

それから、日額旅費につきましては、これは大蔵大臣と各省大臣が相談をしてきましたが、これ

も御所見の趣旨を十分くみ取つてきめていくよう

にいたしました。

なお、四年目四年目になっておるのであります

が、これはまあお話しのように、少し長いかもし

れませんから、これも考え方としてみます。

○峯山昭範君 短時間でござりますので、質問が

ダブらないようにしておきます。

それでは初めに、今まで、今回のこの旅費法

が出たたびごとに附帯決議が毎回出されておりま

すけれども、この附帯決議に対して政府はどうい

うぐあいな処置をとつてきたかということが一つ

と、それから、今回この旅費法の改正にあつて、

どういうふうないわゆる処置をとつてあるか、こ

の点を初めに伺いたいと思います。

○国務大臣(福田赳夫君) 国会におきまして、法律案なんかに関連しましてつけられる附帯決議に

つきましては、政府は十分これを尊重してやつております。それで、実現しておるものも多いわけで

あります。なお検討を続けると、こう

いう基本的なたてまえにいたしておるわけであります。

旅費法につきましての具体的な附帯決議の処理

につきましては、政府委員のほうからお答えさせ

ます。

○政府委員(橋口牧君) 昭和四十一年、当委員会

で旅費法、御審議をいたしました際に附帯決議を

ちょうどだいたした問題点として三点ございました。

第一点は、内国旅行における甲、乙区分につい

て、最近の宿泊料の実態等にかんがみて、実情に沿うよう再検討すること、というのが第一点でございます。これにつきましては、今回の改正の際

に財務局、財務部を通じて調査いたしたわけでございますが、現行の規定によりますと、甲地方は乙地方に対して二割五分増しとなっております。

調査の結果は一割七分増しという計数が出ており

ますので、決議の御趣旨を尊重いたしまして、今

回の改正では甲、乙両地方の差額を一七%とい

うふうにいたした次第でござります。

それから決議の第二点は、「移転料については、

実費弁償を建前として制度の合理化を図ること。」

ということでおきました。これにつきましては、

三月から六月でございますが、調査結果を集計い

ましたとして、旅費の改正案を検討立案いたしまし

たのは、大体昨年の十一月ごろでございます。

その時点におきましては、通運料金の改定が織り込

んでなかつたわけでござりますが、二月一日に通

運料金の改定がございましたので、大体二割程度

の引き上げがつたわけでござります。したがい

まして、移転費用の中に占める通運料金の割合で

計算をいたしまして、おおむね五%ないし一二五%

程度の引き上げの額をこの移転費用の改定の額に織

り込んで計算をいたしておるわけでござります。

○峯山昭範君 それから、あと二、三お伺いした

のですが、私たちが内閣委員会で委員派遣で、

それぞれ出先機関でありますところへ行きまし

て、いろいろなことを聞くわけですが、旅費が足り

ないということをよく耳にしています。まあしか

し実際に三月の末になつてみると、各省庁の出

張が非常に多くなつてくる、こういうことも耳に

するわけです。これはやはり予算が余つていて

いることをよく耳にしています。まあしか

し実際には大きな格差がないわけでござります。

六と五の間にはかなり大きな差がございま

す。つまり平職員と係長との間にはかなり大きな

断層があるわけでございますが、平の職員相互間

には大きな格差がないわけでござりますが、七等

級と六等級を統合いたしまして、一階級整理をいたしたわけでござります。

それから決議の第三点は、「日額旅費について

は、実費を下回らないよう定めること。」で、四

十一年の旅費法の改正に際して日当、宿泊料が約

三〇%引き上げられたわけでござります。法律通

過の後におきまして、各省大臣と大蔵大臣と協議

の結果、おおむね三十数%から四十数%程度の引

き上げをいたしたわけでござります。

以上でございます。

○峯山昭範君 先日の委員会で資料を要求いたし

まして、この出てまいりました資料によりまして

も、たとえば移転料の問題でありますけれども、

これは実態調査は昨年の三月から六月の間にやつ

たと、こういうぐあいに聞いておりますが、そ

の後この資料の最後の(3)にもありますように、通運

料の引き上げがあつたわけですが、この通運料の

引き上げと、いわゆる実態調査との関係はどうい

うぐあいになつておるか、これを伺いたいと思ひます。

○政府委員(橋口牧君) 実態調査の時点は、昨年

三月から六月でございますが、調査結果を集計い

ますので、決議の御趣旨を尊重いたしまして、今

回の改正では甲、乙両地方の差額を一七%とい

うふうにいたした次第でござります。

それから決議の第二点は、「移転料については、

実費弁償を建前として制度の合理化を図ること。」

ということでおきました。これにつきましては、

三月から六月でございますが、調査結果を集計い

ましたとして、旅費の改正案を検討立案いたしまし

たのは、大体昨年の十一月ごろでございます。

その時点におきましては、通運料金の改定が織り込

んでなかつたわけでござりますが、二月一日に通

運料金の改定がございましたので、大体二割程度

の引き上げがあつたわけでござります。したがい

まして、移転費用の中に占める通運料金の割合で

計算をいたしまして、おおむね五%ないし一二五%

程度の引き上げの額をこの移転費用の改定の額に織

り込んで計算をいたしておるわけでござります。

○峯山昭範君 それから、あと二、三お伺いした

のですが、私たちが内閣委員会で委員派遣で、

それぞれ出先機関でありますところへ行きまし

て、いろいろなことを聞くわけですが、旅費が足り

ないということをよく耳にしています。まあしか

し実際に三月の末になつてみると、各省庁の出

張が非常に多くなつてくる、こういうことも耳に

するわけです。これはやはり予算が余つていて

いることをよく耳にしています。まあしか

し実際には大きな格差がないわけでござります。

六と五の間にはかなり大きな差がございま

す。つまり平職員と係長との間にはかなり大きな

断層があるわけでございますが、平の職員相互間

には大きな格差がないわけでござりますが、七等

級と六等級を統合いたしまして、一階級整理をいたしたわけでござります。

それから決議の第三点は、「日額旅費について

は、実費を下回らないよう定めること。」で、四

十一年の旅費法の改正に際して日当、宿泊料が約

三〇%引き上げられたわけでござります。法律通

過の後におきまして、各省大臣と大蔵大臣と協議

の結果、おおむね三十数%から四十数%程度の引

き上げをいたしたわけでござります。

以上でございます。

○政府委員(橋口牧君) 年度末出張の話がござ

ますが、出張は、御承知のように命令権者とい

うものが、各省各庁の長として資格を持つている

わけでござります。各省各庁の長の判断によっ

て、職員に対して旅行命令を出すわけでございま

す。まあ、旅費主管官庁といたしましては、旅費

の精神から申しましても、国費の適正な運用と

いうことを心がけて指導をいたしておるわけでござります。

ただ、現実にまあ旅費の積算をいたします場合

には、各省から新年度の要求として一定の事業量

に見合う旅費の要求がござります。それを予算編

成の過程におきまして査定をいたしまして、旅費

額を決定するわけでござりますが、今回のように

旅費法の改正がござります場合には、旅費法の単

加増に伴う増と、いうものも織り込んで、それと業

務量の増と合わせたものが、四十五年度の旅費と

いうことになるわけでござります。

○峯山昭範君 それから毎年公務員給与がきまり

まして、人事院から勧告が出まして、それぞれ閣

議決定しますと、毎年きまって大蔵省の主計局の

ほうから、行政経費の何%かを節約しろとい

うこととを大蔵省のほうから各省に言つてあります。それを公務員給与等の財源にしていくといふこと

も私たち聞いているわけですけれども、この行政

経費の中に必ず毎年旅費が含まれております。こ

れを大蔵省のほうから各省に言つてあります。それを公務員給与等の財源にしていくといふこと

も私たち聞いているわけでござります。

それから行政経費の節約の場合でも、いわゆる

事業費と一般行政費と両方あります。しかし、こ

の事業費のほうが大体節約率は三%、それから行

政経費や旅費ですね、これは七%、こういうぐ

いになつていて、私は聞いておりませんけれども、実は、たとえば会計検査院とか行政管理庁と

いうのは、確かに旅費が多いわけです。そういう

場合、私はこの旅費は、普通の省庁の事業費に当たるようないが、いわゆる会計検査院等の私は旅費に当たるのじやないか、そういううぐあいに思つておりますが、この点やはりそれぞれ、特徴のある省庁の旅費等については、この節減の問題についても、一律に7%というんじやなくて、やはり3%ないしそれ以下にするというのが当然じやないか、こういううぐあいに思うのですが、この点いかがですか。

○政府委員(橋口牧君) 昭和四十四年度の節約額は百十一億九千三百万円でございます。そのうち旅費は四億六千五百万円でございます。
節約の方法でござりますが、ただいま御質問の中御指摘がございましたように、一定の節約率をかけて金額を算出いたすわけでござりますが、その場合に節約対象除外経費と、それから節約対象経費の中でも軽減率の適用されるものと、いわば三種類あるわけでございます。お尋ねのございました旅費につきまして申しますと、節約の対象外の旅費といたしましては、議員の応召旅費あるいは帰郷旅費、それから一般の公務員の赴任旅費、災害検査旅費、こういう種類のものは節約対象からははずしているわけでございます。
それから昨年の例で申しますと、節約の率を軽減いたしまして二・五%の率を適用いたしました旅費といたしましては、人命保存のための検査監督旅費あるいは法令に基づき定期的に検査を要する検査旅費、検査院の検査旅費、裁判、検察等の旅費が軽減率の適用された旅費の費目でござります。それ以外の旅費につきましては、一般的の指導監督旅費ということで五%の節約の率を適用いたしましたわけでございますので、御指摘のございました行政管理庁の行政監察旅費も同じく五%の節約率を適用して節約額を計上したわけでござります。

○峯山昭範君 内国旅費につきましては、もうすでに多くの質問がありましたので、外国の旅費の問題についても二、三質問しておきたいと思ひます。

ことしはこの外国の旅費関係につきましては三年ぶりに改正があるわけですが、当然私は外務省のほうからその実態調査とか、調査の結果この程度引き上げてほしいというような申し出が大蔵省のほうにあったと思うのですが、この実態調査をどういうふうにしてやつたかということはわからぬと思いますが、もしわかつておりますと、それが教えてもらいたいと思いますし、また、その結果、大蔵省はどういう答申がきてるか、これを先に伺いたいと思います。

○政府委員(橋口牧君) 外国旅費につきましては、外務省の調査結果に基づきまして、外務当局と大蔵当局とが相談をいたして、最終的には政府案を決定するわけでございますが、当初の要求といたしましては、日当、宿泊料については定額三〇%引き上げの要求で出てまいりました。政府案といたしましては、一五%の引き上げと、こういうことに決定をいたしたわけでございます。その他、宿泊料につきまして、現在甲地方と乙地方との間の格差は五%でございます。今回の改正に際しましても、外務当局とよく相談をいたしたわけでござりますが、外務当局の見解にいたしましても、おおむね現在程度の格差で差しつかえない、こういいう御意見でございましたので、その格差をそのまま温存する措置をとったわけでございます。

○峯山昭範君 最後にもう一つだけ聞いておきたいのでありまするが、それは現在当委員会に付託されておる法律の中に、国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の待遇等に関する法律案といふのがありまするが、この中で、この問題のときいろいろ審議はやりますけれども、一点だけ聞いておきたいのですが、それは現在外国に派遣されておりますところの職員が多数おりますが、この職員の待遇に関しまして、いろいろ資料を調べてみると、現在四百九十四人が出張で出かけております。このうち三百九十七人が一年以内の出張、それから七十人が二年内の出張、それから三人が四年以内の出張になつております。そういううぐあいに、要するにいわゆる出張という名目で派遣されておる人、それから休職という名目で派遣されておる人も同じく百十七人おります。要するにこの出張という扱いが、二年以上も

ございましたが、最終的には、ただいま申し上げました二点の引き上げの内容になつたわけでございます。

○峯山昭範君 「公務の円滑な運営に資する」、こういう点から見ますと、二年以上の出張を認めていて、これらの目的がはたして達せられておるかどうか、この点非常に問題だとと思うのですが、この点について伺いたいと思います。

○政府委員(橋口牧君) お尋ねの問題は、最終的には各省大臣が判断される問題であらうと思いまして、現在の実態で申しますと、御指摘がございましたように、各省によって出張の扱いのところあるいは休職扱いのところと、その扱いが区々なつてゐるようございます。今回、政府部内で検討いたしまして、御審議をお願いしております法律案として国会に提案をいたしておるわけでござりますが、ただ、お尋ねがございましたような长期間にわたる出張の場合、ことに海外技術協力ということで、日本の専門知識を海外に広めるというような見地から、経済協力の一環としてやっております場合には、出張の形態をとつておりましても、滞在費は日本の海外技術協力事業団なり、あるいは先方政府または政府機関が負担され行なわれているわけでございまして、ただ往復の旅費につきましては、相手国の負担の限度等もござりますので、日本政府の負担しておる場合も、あるようでございます。またOTCA、海外技術協力事業団が負担をしておる場合もあるようですが、向こうにおいて、いわゆる出張期間中に向こうで滞在する滞在費としての宿泊料、日当といふものは出していないふうに承知をいたしております。

○委員長(西村尚治君) 委員の異動についてお知らせいたします。

本日、源田実君が辞任せられ、岩動道行君が選任せられました。さらに、野坂參三君が辞任せられ、岩間正男君が選任せられました。

いようですから、討論は終局したものと認め、これより採決を行ないます。
国家公務員等の旅費に関する法律の一部を改正する法律案全部を問題に供します。本案に賛成の方の挙手を願います。

○委員長(西村尚治君) 全会一致と認めます。

よって、本案は全会一致をもって原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

○上田哲君 私は、ただいま可決されました国家公務員等の旅費に関する法律の一部を改正する法律案に対し、自民、社会、公明、民社四党の共同提案にかかる附帯決議案を提出いたします。

国家公務員等の旅費に関する法律の一部を

改正する法律案に対する附帯決議(案)

一、物価、公共料金等経済情勢および社会情勢の変化に即応して、時期を失すことのない

よう旅費の改正に努めること。
一、内国旅行における甲乙両地方の区分については、最近の宿泊料金の実情にかんがみ、その格差の解消の方向に努力する等実態に即するよう措置すること。
一、移転料については、実費弁償を建前として、等級区分の縮少等制度の合理化を図ること。
右決議する。

この決議案の趣旨は案文によつて明らかでありますので、説明は省略させていただきます。
以上でござります。

○委員長(西村尚治君) 別に御発言もなければ、上田君提案の附帯決議案の採決を行ないます。
本附帯決議案に賛成の方の挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

○委員長(西村尚治君) 全会一致と認めます。

よつて、本附帯決議案は全会一致をもって本委員会の決議とすることに決定いたしました。

ただいまの決議に対し、福田大蔵大臣から発言を求められておりますので、これを許します。

福田大蔵大臣。

○國務大臣(福田赳夫君) ただいまの附帯決議に

つきましては、政府といたしましては、よく実態を調査し、御趣旨を体して努力いたしたいと存じます。

○委員長(西村尚治君) 審査報告書の作成につきましては、委員長に御一任願いたいと存じます。

が、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(西村尚治君) 御異議ないと存じます。

う決定いたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後二時十五分散会

四月三日本委員会に左の案件を付託された。

一、長野県の寒冷級地引上げ等に関する請願
(第一二六八号)

一、元満鉄職員であつた公務員等の恩給、共済年金通算等に関する請願

年金通算等に関する請願(第一二七一号)(第一二八四号)

一、岩手県宮古市の寒冷級地引上げに関する請願(第一二三二号)

一、岩手県田老町の寒冷級地引上げに関する請願(第一二三三号)

一、元満州殖拓公社員であつた公務員等に対し恩給法等の特例制定に関する請願(第一二三三号)

一、岩手県下閉伊郡新里村の寒冷級地引上げに関する請願(第一二三七号)

一、岩手県宮古市加賀野四ノ二二ノ三

請願者 岩手県盛岡市加賀野四ノ二二ノ三

紹介議員 鈴木 力君

一、岩手県宮古市寒地を五級地に、すみやかに引き上げること。

一、国防省設置に関する請願(第一二三五号)

一、人事行政の厳正に関する請願(第一二三五号)

一、一世一元制の法制化促進に関する請願(第一二三七号)

一、長野県の寒冷級地引上げ等に関する請願
(第一二六八号)

請願者 長野県小諸市加増上原八三二ノ一

第一二七一号 昭和四十五年三月二十日受理
紹介議員 小山邦太郎君

この請願の趣旨は、第一一九二号と同じである。

請願者 岩手県盛岡市盛岡駅前通一ノ三五
名 国鐵労働組合盛岡地方本部盛岡工場支部検査分会内 倉持紅輝外一

請願者 鈴木 力君

この請願の趣旨は、第一〇九三号と同じである。

請願者 岐阜市長良海用町二ノ二四 木村英夫
紹介議員 小林 国司君

この請願の趣旨は、第二七号と同じである。

請願者 滋賀県大津市石山寺辺町三一五ノ二四〇 栗田剛
紹介議員 奥村 悅造君

この請願の趣旨は、第二七号と同じである。

請願者 千葉県船橋市外十名
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第六九号と同じである。

請願者 千葉県船橋市外十名
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第六九号と同じである。

請願者 川島邦衛
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第六九号と同じである。

請願者 外十名
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第六九号と同じである。

請願者 川島邦衛
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第六九号と同じである。

請願者 石橋
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第六九号と同じである。

請願者 千葉市検見川町一ノ六〇九
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第一〇九二号と同じである。

請願者 石橋
紹介議員 木島 義夫君

この請願の趣旨は、第一〇九二号と同じである。

請願者 岩手県盛岡市加賀野字才の神川
紹介議員 鈴木 力君

この請願の趣旨は、第一〇九二号と同じである。

この請願の趣旨は、第七〇号と同じである。

第一三七三号 昭和四十五年三月二十五日受理
一世二元制の法制化促進に関する請願

請願者 広島県沼隈郡沼隈町大字草深一、

七七七 岡崎直巳外二十名

紹介議員 藤田 正明君

この請願の趣旨は、第一九号と同じである。

第六号中正誤

ベシ 殿 行 誤
一二三四五 これはは
一 かれり 未 宮中が これは
二 かれり 平四 宮中で 正
三 たいまだ ただいま